

第一復建の社長に9月27日付で田中清取締役専務執行役員技術本部長が就任し、7期連続の黒字という追い風の中で10月1日の創業70周年を祝った。「厳しい状況を脱し企業体力はついたが、担い手不足は待ったなしの状況だ。社員、社員を含め、次世代をつくり上げることが役目」と覚悟を語る。「大きな環境の変化の中でも『笑顔でch』をいつも心に」をキーワードに、ピンチをチャンスに変えて成長を続ける企業を目指す田中社長に、今後の経営方針と担い手不足への対応を聞いた。



——経営方針について

「防災、アセットマネジメント、街づくりの3本柱を中心に業務を進める。これまで人材や設備に投資する余裕がなかったが、自己資本比率が50%を超えたことから、国土交通省が推進するi-Construction（アイ・コンストラクション）の現に向けて、3次元設計に取

新 社長 Interview

若手中心にCIM推進

り進む。このため、7月1日付でCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）推進室を立ち上

げた。女性、若手社員を中心に進めていく」

「CIMについては、復建グループ6社で情報交換を行っており、復建調査設計の研修に昨年、一昨年と社員を参加させるとともに、3次元ソフトやドローンを導入して積極的に取り組んでいる。また、2月には復建調査設計、アジア航測、宇佐美工業（熊本市）で立ち上げたi-Connのあ

り方を研究する勉強会に参画した。課題が整理できたので、自治体に働き掛けていきたい」

——今後の事業環境は  
「建設コンサルタントのかわり方が変わってきている。プロジェクト・マネジメント（PM）、コンストラクション・マネジメント（CM）業務が増えるだろう。現在、熊本地震に対応する阿蘇大橋地区外事業管理支援業務にJ

Vの一員として加わっており、この分野での成長を期待している。設計施工一括（DB）方式の対応にも取り組んでおり、建設会社とタイアップして進める」

は  
「直近3年間で全社員の1割弱に当たる14人の新入社員を採用し、社内に活気がでてきた。夢と希望を抱いて入社

してきたと思うので、大切に育成していきたい。女性活躍についても、総合職に女性技術者が5人いる。このうち構造系が3人で、発注者との打ち合わせに出席するとびっくりに調整して時間の使い方がうまい。昨年の残業時間はほぼゼロの状況だ」

「会社としても植田薫前社長の時代から家族の時間を大切にしようワークショップを

全社的に実施している。技術系の社員がワンフロアに集まっており、チームワークがとれている。社員1人当たりの残業時間は月平均9時間といったところだ。ただ、何人かは月20時間以上の者がいる。そういう人にも仕事の回し方を教えたい」

eさせ、何事にもchallengeして、必ずchallengeに変える」

\* \*  
（たなか・きよし）1977年3月九州大工学部水土木科卒業、同年4月第一復建入社。2006年9月取締役執行役員技術本部長、08年9月取締役専務執行役員技術本部長、12年9月専務執行役員技術本部長を歴任。福岡県出身64歳。

記者の目

九州各地で頻発する自然災害への対応とともに河川畑を歩み、「率先垂範をモットーに、がむしゃらに働いてきた」と振り返る。柔和な印象からは想像できないが、東日本大震災への支援では、取締役でありながら宮城県石巻市の現地に寝泊まりして指揮を執った。企業として危機的な状況もグループ会社に助けられ、個人的にもいろいろな人から助けられた経験を重ね、最近では「感謝と素直という言葉にひかれる」という。「樂しみはスポーツや、昭和の歌謡曲をテレビで見ながらの晩酌」と笑う。

